

第5回全日本教育系学生バドミントン選手権大会：優勝者のことば

男子シングルス 馬場 湧生（筑波大学）



男子シングルスで優勝することができました。決勝は同大学の後輩、1ゲームを先取された状態でプレッシャーもありましたが、最後は勝ちきれてよかったです。来シーズンに向けて、この大会で一喜一憂することなく、チームとしても、個人としても、インカレ優勝を必ず達成するという覚悟をもって、日々の練習に取り組みたいと思います。

男子ダブルス 加藤 一郎・齋藤 謙太（帝京大学）



今回はダブルスのみの出場となりましたが、2連覇することができて嬉しいです。前回までは、上の学年の選手が多く、向かっていく気持ちだったため、やりやすい面もあったのですが、今回は下の学年が多くなってきて、勝たなければならないといったプレッシャーもあった中、勝つことができたのは自分にとってとても大きかったと思います。今後の大会も1つでも勝っていけるよう頑張っていきたいです。また、帝京魂を見せていきたいと思います。（加藤一郎）

今回また優勝し、2連覇できたのは嬉しかったです。ダブルスだけの出場ということもありダブルスだけに専念することができました。競った場面も多々ありましたがしっかりとダブルスの準備をしていたため勝ちにつながったと思います。今後の大会でもしっかりと準備をして臨み良い結果を出して帝京魂を見せていけたらと思います。（齋藤謙太）

女子シングルス 大久保 敦美（筑波大学）



今年度最後の試合では、優勝という結果を残せましたが、課題が多く残る試合となりました。単純にラリーを続けることしか出来ず、自分から仕掛けていくことが出来ませんでした。来年度は私にとって最後の1年となります。悔いの残らないよう、精進していきたいと思います。

女子ダブルス 柏原 みき・綿矢 汐里（筑波大学）



今回は綿矢汐里さん（3年）とダブルスを組んで優勝することができました。初めは、2人のローテーションがうまくいかなかったり、エラーが連続してしまったりと思うようにいかない部分もありましたが、コミュニケーションをとりながらその問題に対して修正できたと思います。私は特に有利な展開を作るためにコースやタイミングに変化をつけていくことを心がけました。今回の優勝が最終目的ではなく、さらに上を目指せるように頑張っていきたいと思います。最後になりましたが、この大会を開催するにあたり、多くのご支援をして下さりありがとうございました。（柏原みき）

今年度を締めくくる大会でもあったので、優勝することができて嬉しいです。来年は大学生最後の1年になるので悔いの残らないように、日々精進していきたいと思います。（綿矢汐里）